

医学統計学研究センター
平成 26 年度第 4 回セミナー

経時的繰り返し測定データに基づいて治療効果を評価する
研究デザインと統計解析－治療効果とは？評価方法は？－

*Statistical design and analysis for
evaluating the efficacy of treatment based on longitudinal data*

講 師： 丹後俊郎（医学統計学研究センター）

日 時： 平成 26 年 9 月 26 日（金） PM1：30～PM4：30

場 所： 汐留イタリア街東京茶業会館 8 F 東茶協ホール

参考書： 丹後俊郎著、「無作為化比較試験－デザインと統計解析」第 4 章、朝倉書店、2003.
丹後俊郎著、「統計学のセンス－デザインする視点・データを見る目」第 4.7 節、朝倉書店、1998.

対象： 臨床医学、公衆衛生学、疫学などの研究に従事している大学院生、研究者、実務家、臨床開発に従事している製薬企業の統計担当者、その他、本セミナーに興味のある者

参加費： 参加申し込み区分（税込）：

A：大学院生 6 千円（大学院生を本務とされている方）
B：アカデミック 1 万 2 千円（大学・病院・研究機関所属の方）
C：ノン・アカデミック 2 万 4 千円

定 員： 50 名（定員に達しだい受付締切）

セミナーの内容：

インフルエンザ罹患時における異常行動とタミフル服用との関係について大きく報道され社会的な関心を呼んだことは記憶に新しい。そもそも、「薬が効く」ということは必ずしも「病気が治る」という意味ではなく、また、すべての患者に一律に効くわけでもない。同じ薬剤を同じ用法用量で投与されたすべての患者が同じように反応することはきわめて稀で、早期に改善傾向を示す患者もいれば、残念ながら悪化してしまう患者もいる。しかも、どの患者がどちらの方向に反応するかは事前には予測が難しく、投与後の経過観察でしか分からない、という反応プロファイルに「予測不可能な個体差」が存在する場合も少なくない。

本セミナーでは、経時的繰り返し測定データの解析に從來からよく利用されてきた、あるいは、最近提案された統計手法：

1. 個体毎の反応プロファイルは各治療群では均質（個体差は無視できる）と仮定する「経時的繰り返し測定データの分散分析」、「共分散分析で代表される一般化線形モデル（GLIM）」
2. 個体毎の反応プロファイルには個体差があるが、個体差を各治療群の平均的プロファイルの周りにばらつく確率変数（変量効果）で表現する「一般化線形混合効果モデル（GLIMM）」
3. 個体毎の反応プロファイルには治療効果を超えた本質的な個体差があり、もはや、平均的な反応プロファイルでは表現できないと考え「個体毎の反応プロファイルを要約、分類する方法」

について、「治療効果をどう表現するのか？どう表現すべきか？」に焦点を当て、具体的事例を用いて、それぞれの pros and cons を解説する。その際、臨床研究では不可避な missing data の発生に影響を受けにくいデザインについても解説したい。

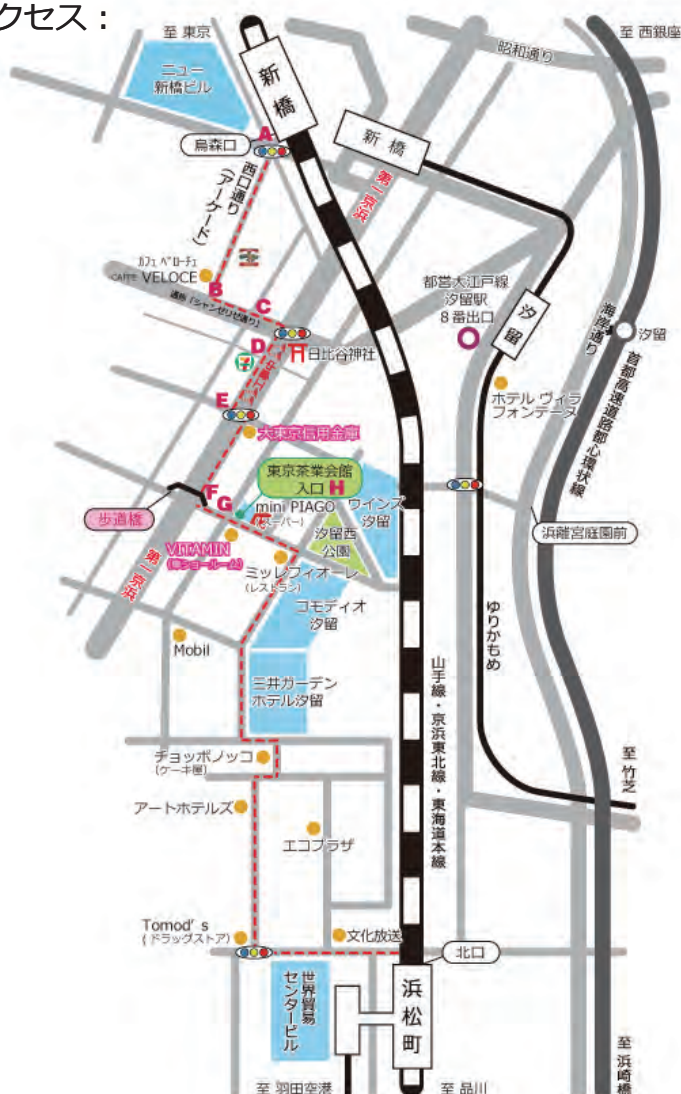


エレガントな汐留イタリア街で行われる
最先端のセミナーに参加しませんか？



Coffee Break では素敵な音楽と Coffee & Sweets が楽しめます

アクセス：



**東京茶業会館 8 F
東茶協ホール**
港区東新橋 2-8-5
(汐留イタリア街)

JR「浜松町」駅「新橋」駅
地下鉄大江戸線・ゆりかもめ
「汐留」駅、地下鉄三田線
「御成門」駅より 徒歩7分
地下鉄浅草線・大江戸線
「大門」駅より 徒歩8分

セミナー参加申込方法：

参加希望の方は、配布資料の準備もございますので、
事前登録をお願い致します。

9 / 18 (Thu)

までに、できる限り、

参加申し込みは  e-mailにて承ります。参加費は当日お支払い下さい。
※領収書と参加証明書お渡し致します

宛先： secretary@medstat.jp

件名： 第4回セミナー参加申込

本文： 1. ご氏名 2. ご所属 3. 参加申し込み区分
4. テキスト購入希望の有無

※セミナーのお申し込みをいただいてからお申込者様のご都合でキャンセルされる場合、
キャンセル料を申し受けますので、ご注意ください。セミナー開催の

8日前（開催当日を含まず）まで： 不要
7日前 - 前々日のキャンセル： 参加費の半分
前日 - 当日のキャンセル： 全額